青い心

そくってぃ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
青い心

【Ｎコード】
Ｎ１６５８ＢＡ

【作者名】
そくってぃ

【あらすじ】
誰しも忘れらない恋をするもの、人生の試練を乗り越え、まだ未熟な高校生が大人になっていく１つの物語。

いつもの朝

口から白い息がでる、寒さもいよいよ本番か。
7時36分それが毎朝乗る通学電車だ。

「またみてんのかよ。」
「うん？」
ダメだイヤホンに埋まった耳は甘い声をだすアニメで夢中だった。

「まさとぉー。」
耳からイヤホンを引っ張りだしてやった。
「うわっ、いいとこだったのに！！うっ今日さみぃな。」
「今更気づいたのかよ、お前にとってアニメって暖房効果もあんだな。」
「知らないの晴也君？アニメは人類が開発した万能薬なんだよ。」
「真人、ヤバイぞやっぱりオタクはいってる。」
真人にオタクはいってるって言うと決まって言う。
「まだ俺はアニメ好きの域だよ。」
って、誇らしげにいってるが誇らしい欠片もない。
「晴也見ろよ、またあいつらだ。」
またニヤニヤしてる、これは何か起こす前兆だった。
矛先には騒いでるオタクがいる、明らかに高校生には見えない、完全に制服きたオッサンだ。
「うるせぇよ、だから嫌いなんだよバカ高の生徒はよぉ。」
まるでビデオの停止ボタンを押したみたいにピタッと静かになった。
「あははは、真人やるな。」
「仕方ねぇよ、駅の平和を守らないとよ。」

“四番線に電車が参ります、黄色の線からお下がりになってお待

ち下さい”

電車はきまって満員でやって来るが、この駅で大半が下車をする。

毎日同じ事を繰り返す、そうすると色んな事が見えてくるものだ、例えばいま目の前に座っている３０代ぐらいのサラリーマンはいつも端の席で口を開けて寝ている、そうすると「ねぇまただよ。」って言いながら女子高生が笑っているのだ。

そんなにくだらない事でも、毎日目の前で起きると自然に“またやってる”という言葉が心に浮かぶのである。

「今日も練習で遅いの？」

真人は野球部で学校が遠い分帰りも遅かった。

「そうだよ、全く練習っていうより、無賃労働だよ、晴也はいいよなバイトできて。」

「給料入ったら一箱買ってやってんじゃん。」

「あぁほんとありがたやー」

中学から俺の周りの友達も俺もタバコを吸っていた、かっこいいという勘違いから始まった物であり、今じゃ必需品となっていた。

“次はぁ小田原、小田原です”

「じゃあ、練習おわったら連絡して。」

「もちのろんだよ。」

改札にＳｕｉｃａをかざす、小田急は１１分、１０分ぐらい時間が空くのは冬は最悪に寒い時間だ。

「よっ。」

突然肩を叩かれた。

「おっ洋か。」
「菅は？」
「知らねぇよ、またおそいんだべ。」
俺には学校に2人しか友達がいない、つまりその一人である、そしてこの１１分と帰りの５２分が一番楽しいという学校ライフだった。

高校になってから良いことなんて無い気がする、そもそも高校自体おもしろいものではなかった、それでも光が差した４ヶ月間があった。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n1658ba/

青い心

2012年1月4日04時45分発行